

第78回

全国老人福祉施設大会

山口大会

オンライン開催

龍宮の潮吹

テーマ

介護新時代への船出

～現場革新と科学的介護の実現～

主催

公益社団法人 全国老人福祉施設協議会
山口県老人福祉施設協議会

後援

厚生労働省、山口県、山口市
社会福祉法人 全国社会福祉協議会
社会福祉法人 山口県社会福祉協議会
社会福祉法人 山口市社会福祉協議会

参加対象

- ①全国老施協会員施設・事業所の役員及び職員等
- ②老人福祉・介護事業に関わる行政、社会福祉協議会の役員及び職員
- ③その他本会が認めた者

参加費

参加者1名あたり 12,000円(税込)
【会員:6,000円(税込)】

配信期間

令和3年

令和4年

11/25(木)～3/31(木)

開催地

山口県山口市

(山口市産業交流拠点施設 多目的ホール 他)

視聴方法

全国老施協ホームページ上に、全国大会特設ページを設置予定です。
視聴ID・パスワードを入力の上、ご視聴頂きます。

介護新時代への船出

～現場革新と科学的介護の実現～

趣旨

現在、日本における少子高齢化の進展や人口減少は、過疎化による地方の衰退をもたらすほか、現行の年金制度や医療・介護制度の方向をも左右する大きな社会問題となっています。

さらに、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は、全世界にパンデミックを起こしています。日本でも感染者数の増加と減少を繰り返し、未だに収束の兆しが見えていないのが現状です。

そのような中、2021年の介護報酬改定は、新型コロナウイルス感染症や大規模災害が発生する中で、「感染症や災害への対応力強化」を図るとともに、団塊の世代の全てが75歳以上となる2025年に向け、高齢者人口がピークとなる2040年も見据えながら、「地域包括ケアシステムの推進」、「自立支援・重度化防止の取組の推進」、「介護人材の確保・介護現場の革新」、「制度の安定性・持続可能性の確保」を5つの柱として、それぞれの方向性を示し、前回の改定率を上回る0.7%のプラス改定となりました。

私たちはこれまで、エビデンスを基盤とした「科学的介護」の実現に向け取り組んできたこともあり、今回の改定は介護保険の目的である尊厳ある自立支援と介護サービスの質の向上に資する項目が多く含まれました。中でも、サービスをできるだけ科学的に評価するための情報システムの活用として「LIFE (科学的介護情報システム)」の運用も開始されました。これは、より質の高いサービス提供を推進するために、介護そのものの概念を「ICTを活用した人と人との関わり」に客体化させていく、言わばいかに私たちが「科学的介護」への取組みを進めるかが問われています。

さらに、私たちは介護・福祉分野の人材不足等の現状を踏まえながら、今後の介護サービス需要の伸びに対応しつつ、科学的介護を基に効果的、効率的で持続可能性の高い、よりドラスティックな介護提供体制の構築を目指し、邁進することが求められています。

第78回全国老人福祉施設大会 (山口大会) は、今一度「介護・福祉」の多様な課題を見つめ、私たちの未来を力強く拓く意志を発信する場として開催するものです。

全体会

35分

開会式典

30分

行政報告

厚生労働省

30分

基調報告

公益社団法人全国老人福祉施設協議会 会長 平石 朗

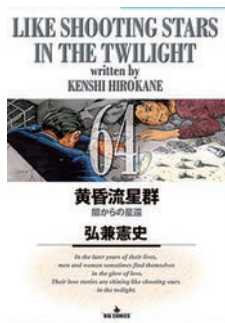
90分

記念講演

有限会社ヒロカネプロダクション 代表取締役
漫画家

弘兼 憲史 氏

1947年、山口県生まれ。早稲田大学法学部を卒業後、松下電器産業(現パナソニック)に入社。のちに漫画家として独立し、1974年「風薫る」でデビュー。人生、人間、社会についての縦横無尽な洞察が特徴で、「人間交差点」で小学館漫画賞(1984年)、「課長島耕作」で講談社漫画賞(1991年)、「黄昏流星群」で文化庁メディア芸術祭マンガ部門優秀賞(2000年)、このほか日本漫画家協会賞大賞(2003年)や紫綬褒章受章(2007年)を受賞。漫画以外の著作も多数。



30分

シンポジウム「新時代の介護」

公益社団法人全国老人福祉施設協議会 ロボット・ICT推進委員会

5分

永年勤続表彰 表彰者メッセージ

5分

大会宣言

10分

次期開催県挨拶

分科会

第1分科会

科学的介護の深化

～「LIFE」と「認知症BPSDケアプログラム」の取り組み～

趣旨

後期高齢者や認知症高齢者の増加、福祉・介護の担い手不足、財政的な制約の高まりなどをはじめとした、私たちを取り巻く社会環境の変化に伴い、質的・量的な介護ニーズも日々変化しています。その変化に的確に対応していくには、介護業界の連携はもとより、行政、医療、学術研究機関、地域住民等のあらゆる関係者との繋がりが重要であり、現場革新と科学的介護の実現を通じた、より高品質な介護サービスの創造が期待されています。

本分科会では、そのような介護新時代へのスタートアップとして、今まで蓄積してきた様々なエビデンスをこれからの介護に効果的に活かし、介護の質を高めていく上で鍵となる「科学的介護情報システム(LIFE)」と「認知症BPSDケアプログラム」等の取組みから、介護の新たな価値について、その可能性を考えていきます。団塊世代が後期高齢者となる2025年が目前に迫る中、更に先の2035年の社会に向けたビジョンである「最期の一瞬まで、自分らしく生きられる社会」の実現を目指し、今から取り組むべきことを明確にし、介護新時代への船出を迎える場として本分科会を開催いたします。

企画

40分 情勢報告

全国老施協老施協総研運営委員会 委員長 尾関 英浩

40分 講演 I

LIFEの概要について

厚生労働省 老健局 老人保健課

50分 講演 II

CHASE～LIFE ー鈴鹿グリーンホーム介護現場・多職種の取り組み事例ー

社会福祉法人鈴鹿福祉会 鈴鹿グリーンホーム 施設長 服部 昭博 氏

50分 講演 III

コロナ禍における認知症の人や家族への支援について

国立法人広島大学 石井 伸弥 氏

40分 講演 IV

認知症BPSDケアプログラムについて(仮)

東京都医学総合研究所 社会健康医学研究センター センター長 西田 淳志 氏

70分 シンポジウム

認知症BPSDケアプログラム実施施設の事例紹介(仮)

シンポジスト

株式会社すずらん 代表取締役 今井 康明 氏

医療法人社団福寿会 在宅総合支援センターふくろう 所長 弓狩 幸生 氏

特別養護老人ホーム等々力の家 介護支援専門員 勝俣 洋子 氏

コーディネーター

東京都医学総合研究所 社会健康医学研究センター センター長 西田 淳志 氏

第2分科会

2040年に向けての特別養護老人ホームの在り方

趣旨

少子高齢化・生産労働人口の減少が深刻化する中、私たちはターニングポイントとなる2035年から5年戦略をもって、高齢者数がピークとなる2040年を見据え、あらゆる社会システムにおいて人口減少を念頭においた改革が迫られています。

高齢者福祉・介護において次世代へ繋ぐ『未来型介護』を創造するためには、科学的介護を推進し、生産性の向上やICT活用、医療との連携などを意識した改革をしていかなければなりません。

改革には、大きなエネルギーとマネジメント能力が必要です。皆様と共に2040年を見据えた介護基盤を構築して参りたいと思います。本分科会を通して『未来型介護』を持って『国民の負託』にどう応えていくか、様々な角度から特養の未来像について一緒に考えてみませんか。

企画

30分 情勢報告

特別養護老人ホームの現状と果たすべき役割

全国老施協介護保険事業等経営委員会特別養護老人ホーム部会 部会長 石踊 紳一郎

60分 講演 I

収支状況等調査をフル活用した経営戦略 ～経営困難期の勝ち残り戦略とは～

全国老施協介護保険事業等経営委員会委員長/社会保障審議会介護保険部会委員 榎田 和平

50分 講演 II

LIFE関連加算の解説

①科学的介護推進体制加算・栄養マネジメント強化加算

②個別機能訓練加算・ADL維持等加算

③自立支援促進加算・口腔衛生管理加算

全国老施協副会長/社会保障審議会介護給付費分科会委員 小泉 立志

60分 講演 III

人口動態から考える今後の特養経営について(仮)

産業医科大学医学部公衆衛生学教室 教授

社会保障審議会介護給付費分科会 委員 松田 晋哉 氏

60分 講演 IV

医療事業の経営者から見た今後の特養・社会福祉法人経営について

医療法人平成博愛会 博愛記念病院 理事長

一般社団法人日本慢性期医療協会 会長 武久 洋三 氏

30分 講演 V

介護報酬が非課税である根拠と特養経営者の責務

～利用者負担軽減制度の完全実施に向けて～

全国老施協介護保険事業等経営委員会特別養護老人ホーム部会 幹事 山田 淳子

第3分科会

これからの介護を見据えた人材戦略

趣旨

介護業界においては、現在、介護人材の確保・定着・育成の有効策を講じることが不可欠とされています。コロナ禍により、新しい生活様式が求められており、コロナ禍に対応した職場環境の整備が求められています。求職者に選ばれる、安心のできる業界への転換が至急課題となっています。具体的には、

①コロナ禍における介護施設の人材採用 ②コロナ禍での介護人材（外国人介護人材）育成と定着 ③科学的介護の進展に伴い、求められる人材像の変化への対応 ④ロボット・ICT等の活用による職員の負担軽減 ⑤報酬改定による人員配置に対応した人材の確保 ⑥潜在介護福祉士の復職支援の活発化 ⑦外国人介護人材や元気高齢者の受け入れによる業務分担と効率化の推進

等により、介護業界の信頼度と将来性を高めていくことが重要です。

国の政策を含めた上記7つの具体的手法を念頭に、介護人材の確保・定着・育成に資するこれからの介護を見据えた人材戦略について、研鑽を図る場所を提供したいと考えております。

企画

90分 行政報告

厚生労働省 社会・援護局
福祉基盤課 福祉人材確保対策室 室長 田中 義高 氏

60分 講演 I

特別養護老人ホームにおける人材確保の現状と今後について (コロナ禍の人材確保、長期的な人材確保の取組) (仮)

独立行政法人福祉医療機構 経営サポートセンター
リサーチグループ グループリーダー 松本 庄平 氏

60分 講演 II

外国人介護人材定着の課題と対応 (仮)

社会福祉法人晋栄福祉会 理事長 濱田 和則 氏

120分 シンポジウム

これからの介護を見据えた人材戦略 (仮)

シンポジスト

独立行政法人福祉医療機構 経営サポートセンター
リサーチグループ グループリーダー 松本 庄平 氏
ケアサポート株式会社 介護事業部 人財育成課 課長 福留 孝一 氏
淑徳大学 総合福祉学部 社会福祉学科 教授 藤野 達也 氏
全国老施協介護人材対策委員会 委員長 太田 二郎

コーディネーター

第4分科会

地元の地域包括ケアとデイサービスの未来を考える

趣旨

2025年に向けて高齢者福祉・介護がとるべき道は、地域包括ケアの構築と地域共生社会の実現という2つのビジョンによって明確に打ち出されています。また、今回の制度改正・報酬改定でも「自立支援・重度化防止の推進」と「科学的介護の推進」がより評価されることとなりました。これからのデイサービスは、事業所が所在する地域の実情に合わせ、現場でそれらをどう実践し、どう活用していくかが問われ、まさに「選ばれるデイサービス」としての戦略が重要となっていきます。

介護に対するニーズも時代とともに新たなフェーズに入った今、「人財」「地域」「科学的」を融合させ、地元から「なくてはならない」と言われ続けるためのデイサービスの未来について研鑽を図ります。

企画

30分 情勢報告

全国老施協デイサービスセンター部会 部会長 波瀾 幸敏

60分 講演 I

デイサービスにおける加算算定状況と算定のポイント

全国老施協デイサービスセンター部会 幹事 小川 弥仁

60分 講演 II

地域包括ケア時代に求められるデイサービスのあり方

～デイサービス事業者が描くべき「ビジョン」と「経営戦略」
株式会社ケアモンスター 代表取締役 田中 大悟 氏

30分 講演 III

小規模自治体・過疎地・僻地などのデイサービスを

抱える法人・施設の経営戦略

社会福祉法人 阿武福祉会 介護福祉士 福田 大介 氏

60分 講演 IV

デイサービスにおける生産性向上と科学的介護の推進

～働きがいのある現場を目指すことがLIFEの本質的活用を促進する～
株式会社TRAPE 代表取締役 鎌田 大啓 氏

60分 講演 V

通いの場戦略の限界とその先～総合事業／整備事業のこれから

三菱UFリサーチ&コンサルティング株式会社 共生・社会政策部長 主席研究員 岩名 礼介 氏

第5分科会

新しい入居者像を見つめた軽費・ケアハウスの展開

趣旨

令和3年度の介護報酬改定では「地域包括ケアシステムの推進」をはじめとした柱が打ち出され、軽費老人ホーム・ケアハウスにおいても、基準改正によりそれらへの対応が求められます。また、今後、さらなる少子高齢化が進む中で、軽費老人ホーム・ケアハウスの入居者の質は確実に変化していき、従来通りの処遇やサービス提供だけでは難しい状況のほか、医療との連携がより一層求められてくることが想定されます。

本分科会では、そうした新しい入居者像を見つめ、地域共生社会における軽費老人ホーム・ケアハウスがどうあるべきなのか、どのような対応や対策が求められていくのか、軽費老人ホーム・ケアハウスの明るい未来と展望について研鑽を図ります。

企画

30分 情勢報告

全国老施協軽費老人ホーム・ケアハウス部会 部会長 藤井 陽子

60分 講演Ⅰ

地域共生社会における養護老人ホーム、軽費老人ホーム・ケアハウスのあり方

～令和2年度老健事業の調査研究事業を中心に～※第6分科会と共通プログラム

淑徳大学 総合福祉学部 社会福祉学科 教授 結城 康博 氏

60分 講演Ⅱ(対談)

地域共生社会の実現に向けた軽費老人ホーム・ケアハウスへの期待

～各施設種別における現状と課題を踏まえつつ～

昭和女子大学 人間社会学部 福祉社会学科 教授/全国老施協理事 北本 佳子 氏

全国老施協軽費老人ホーム・ケアハウス部会 委員 中川 勝喜

30分 講演Ⅲ(対談)

軽費老人ホームA型とケアハウスの実際～ケアハウスへの転換事例から～

社会福祉法人緑水会 ケアハウス結いの泉 施設長 小佐野 進 氏

全国老施協軽費老人ホーム・ケアハウス部会 部会長 藤井 陽子

60分 講演Ⅳ

ケアハウスで工夫している取り組みと入居者の変化

～「年金で生活できる住まい」相談窓口の実践から～

フリーライター(元シニア住まい塾相談員) 栗原 道子 氏

60分 講演Ⅴ(事例発表)

ケアハウスにおける看取りと医療連携の最前線～先進的取組と今後の展望～

社会福祉法人昭徳会 ケアハウス高浜安立 看護師 筒井 里美 氏

社会福祉法人仙台ビーナス会 ケアハウス大宮 副施設長 大野 文 氏

第6分科会

“福祉”を届けるべき人々への包括的な支援と持続可能な養護老人ホームの経営

趣旨

養護老人ホームは、住環境や経済的な課題をはじめとした複雑な課題を抱える高齢者の生活を支援し続けている一方、地方分権による措置費の一般財源化や介護保険制度により、入所対象者・措置機関・養護老人ホームの三者において制度的な適応に困難を生じるケースも見受けられます。その中で、契約入所や地域共生社会など、養護老人ホームを取り巻く状況も変わりつつあります。

こうした現状において、地域住民や入所対象者、措置機関から今以上に必要とされる養護老人ホームを指向しつつ、定員割れや収支バランスの悪化の中で養護老人ホームをどう構築していくのか、現制度における現場の課題解消に向けた全国的な行動を探求すべく、研鑽を深めるものです。

企画

45分 情勢報告

全国老施協養護老人ホーム部会 部会長 利光 弘文

60分 講演Ⅰ

地域共生社会における養護老人ホーム、軽費老人ホーム・ケアハウスのあり方

～令和2年度老健事業の調査研究事業を中心に～※第5分科会と共通プログラム

淑徳大学 総合福祉学部 社会福祉学科 教授 結城 康博 氏

60分 講演Ⅱ

養護老人ホームの役割と事業継続の道標

～触法高齢者受け入れの実態を踏まえて～

西九州大学 健康福祉学部 社会福祉学科 准教授 江口 賀子 氏

45分 講演Ⅲ

「ストップ措置控え!」のためのアクションへ向けて…

～被措置者数等調査3か年経過レポートより～

全国老施協養護老人ホーム部会 幹事 平岡 毅

30分 講演Ⅳ

契約入所の現状と今後の展望～契約入所のQ&A～

全国老施協養護老人ホーム部会 副部会長 林 武

60分 講演Ⅴ(対談)

『どうなる!どうする!これからの養護老人ホーム』

～現状の打破と未来(あした)への対応～

城西国際大学 福祉総合学部 福祉総合学科 教授 清水 正美 氏

全国老施協養護老人ホーム部会 部会長 利光 弘文

全国老施協養護老人ホーム部会 幹事 平岡 毅

お申込み方法

STEP 1

チラシに掲載のURL/ 検索 / QRコードから、全国老人福祉施設協議会ホームページのTOPページへアクセス



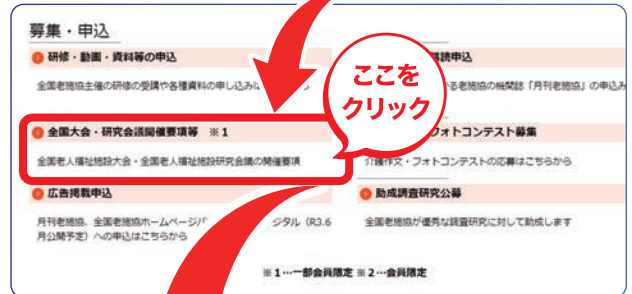
STEP 2

TOPページの「募集・申込」をクリックして、「全国大会・研究会議開催要項等」を選択、さらに、「全国老人福祉施設大会の開催情報(令和3年度)」をクリックしてください。

QRコードからもアクセスできます



※なお、TOPページ上部のイメージ画像部分に大会ページにダイレクトにアクセスできるリンクもございますので、ご利用ください。



STEP 3

「全国老人福祉施設大会の開催情報(令和3年度)」ページの「第78回全国老人福祉施設大会(山口大会)」をクリックし、大会特設ページ(9月下旬開設予定)へアクセス



STEP 4

大会特設ページの参加申込ページよりお申し込みください。
(申込受付期間2021年10月1日10時~2022年3月24日)

STEP 5

お申込み手続きを完了いただきましたら、申込受付メール、参加費のご請求書の原本をお送りいたします。

STEP 6

指定の期日までにお振込みを完了いただきましたら、動画視聴用のID/PWをメールにてお送りさせていただきます。
また領収証を受付システムにて発行いたします。

申込に関するお問い合わせはコチラ

株式会社サンケイ会館・山口大会運営事務局 **担当** 高野・小此木・近野

TEL 03-3516-7813 **Mail** roushikyo-yamaguchitaikai@sankeibldg.co.jp



秋吉台



SL「やまぐち号」



柳井金魚
ちょうちん祭り



東後畑棚田

Yamaguchi

ON LINE

2021

JS 公益社団法人 全国老人福祉施設協議会
老 施 協 (Japanese Council of Senior Citizens Welfare Service)

〒102-00113 東京都千代田区平河町2丁目7番1号 塩崎ビル7階

TEL : 03-525-7800 FAX : 03-525-7805

E-mail : js.jimukyoku@roushikyo.or.jp

ホームページアドレス <https://www.roushikyo.or.jp>